

令和7年度 学校関係者評価書(様式)	本年度の活動(見聞の中心として)	成果と課題(成果:○ 課題:▲)	今後の活動	学校関係者評価	
<p>1 調査研究</p> <p>○学力向上・授業力向上に係る研修会:年間7回うち指導主事招請年2回</p> <p>○本校員による授業公開:年間回へ3回以上実施</p> <p>○全国学力・学習状況調査・みえスタディチェックの結果分析による本校の課題の把握と対応:年間2回以上</p> <p><検証></p> <p>●学校アンケート</p> <p>○児童アンケート「学校の授業はよくわかる」:青足特目答93%以上</p> <p>○児童アンケート「学校の先生との間で話し合う場面では、自分の考えを述べたり、広げたりすることができていると思う」:青足特目答93%以上</p> <p>○児童アンケート「学習の中でクローズドブックなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」:青足特目答90%以上</p> <p>●全国学力・学習状況調査(8年生)・みえスタディチェック(4,5年生)</p> <p>●全国学力・学習状況調査:全国平均</p> <p>●みえスタディチェック:県平均</p>	<p>1 調査研究</p> <p>○本年度は、研究授業を低学年部・高学年部・特別支援部の2回実施した。全体研修に向けての事前検討会や学年部で行う指導案検討の時間が充実していた。研究授業のみならず、教員同士の授業参観を全学年で行い、そこの学びを共有し授業力向上に努めた。</p> <p>○「編を合い、読を合い、主教材に学ぶ子どもをめざして」を研究主題として、児童の主体性を重視した個別最適な学びと個別最適な学びに向けた授業改善を進めた。全国学力・学習状況調査とみえスタディチェックの結果分析から、本校の強みと弱みを分析し、弱みを強化するために授業改善が実施するべきところを精査し、すべての教職員で確認して取り組んでいる。その結果、児童アンケート「学校の授業はよくわかる」の青足特目回答が、高学年で98.5%(前年比+0.3%)となった。そのことから、学習者の満足度は高いことが考えられる。</p> <p>▲児童アンケート「学校の先生との間で話し合う場面では、自分の考えを述べたり、広げたりすることができていると思う」の青足特目回答は低学年で96.4%と高く、学習スタイルの定着や読書に意欲を持って取り組んでいると考えられるが、中学年54.3%、高学年62.9%と低く、話し合いや自分の考えを伝えることに際する積極づけやふりかえりを行うことで自分の意見が他の学習にも広がっていると感じられる結果を確かなる必要がある。</p> <p>○児童アンケート「学習の中でクローズドブックなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の青足特目回答は96.9%と非常に高く、子どもたちの興味関心とICT機器が合致していることから、今後も手帳としてのICT機器の活用を模索していく必要がある。</p> <p>▲児童アンケート「学校の授業はよくわかる」という青足特目回答が高いにも関わらず、全国学力・学習状況調査の結果に反映していないのは、家庭学習の定着が低く、学習定着後に実施している内容の定着が弱いということや、大問でたくさんの情報の中から大事なことを拾い読みして考察する能力や長文に対して読意欲を取り組みをもつ意欲に課題がみられると考察する。</p>	<p>2 基礎学力の定着</p> <p>○家庭学習の定着:「家庭学習の手引き」を2回以上配布した。</p> <p>○スクリーンタイムの削減:白鳥中学校区ノーツメディアデー2回以上</p> <p>○読書活動の推進:リーディングパティ等の図書イベントの実施、親子読書2回以上、図書館の参観</p> <p><検証></p> <p>●学校アンケート</p> <p>○保護者アンケート「お子様は、ご家庭での学習習慣がついていますか」:青足特目答90%以上</p> <p>○児童アンケート「家で自分一人で問題を立てて、勉強をしている」:青足特目答90%以上</p> <p>○児童アンケート「書検(月曜日から金曜日11日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか)」:20分以上90%以上</p> <p>○保護者アンケート「読書時間10分以上」:80%以上</p> <p>○児童アンケート「読書時間10分以上」:80%以上</p> <p>○児童アンケート「読書は好きですか」:青足特目答90%以上</p> <p>●図書貸出し冊数:年間平均一人あたり30冊以上</p>	<p>2 基礎学力の定着</p> <p>○家庭学習の定着をめざし、「家庭学習の手引き」を2回以上配布した。</p> <p>▲家庭学習の習慣は、低学年から定着を図る必要がある。</p> <p>▲ノーツメディアデーの取組は、取り組み始めた家庭とスクリーンタイムの削減が顕著な二極化が見受けられる。</p> <p>▲児童アンケート「1日当たり30分以上勉強している」という児童が72.9%であったことから、宿題は取り組み始めているが、自分で計画を立てて学習することが弱いことがうかがえる。</p> <p>○本年度より家庭での読書への取組として、全学年で親子読書の取組を実施した。保護者の読書活動への協力により児童の読書への意欲が向上した。</p> <p>○図書館の参観については、図書ボランティアの協力により、校内に読書活動推進のための掲示等をしていただき、児童の本への興味関心が高まった。</p> <p>○図書イベントの実施は、児童が図書館を活用するよききっかけとなった。実際にイベント実施期間は来館人数が大幅に増加した。</p> <p>▲図書イベントの実施期間のみ来館人数が増える傾向にあった。それ以外の期間が継続して来館人数が増えることはなかった。</p> <p>▲読書時間以外に1日あたりどれくらいの読書をしているかの問いに対して、10分以上が90%を占めるが、残りの40%中32%が全く読まないか読書していないと回答している。読書しない児童が校内の2割を占めている。</p> <p>○貸出し冊数は前年度より目標とする年間平均30冊を上回っている。</p> <p>○低学年の貸出し冊数の多さで平均貸出し冊数が増えている傾向にあり、高学年の貸出し冊数が伸び悩んでいる。また、読んでいない本の内容も年齢にあった本を読めていない児童が多い。</p>	<p>●本年度も研究授業は3回行い、事前検討会や指導案検討の充実を図る。</p> <p>●みんなで考えた報告会という成功体験を積み重ねることも指導者が意識して取り組み、実施させられるように努めたい。また、教職員の授業スタイルが広がっていることを成果として、引き続き児童の主体性を重視した個別最適な学びと個別最適な学びに向けた授業改善を続けていく。</p> <p>●問題のスタイルに慣れていないことも一因と考えられるので、今後は全国学力・学習状況調査の過去問や県教育委員会作成の「学viva」等の課題に取り組み機会を作り、様々な問題に対応できる力をつける。</p> <p>●今後は家庭学習の充実に向けて発信を行う。</p> <p>●ノーツメディアデーの取組について児童に声かけをする。</p> <p>●本年度も「親子読書」に取り組み。</p> <p>●読書活動推進のため、引き続き図書館参観や掲示等を行う。</p> <p>●図書イベント開催時と同様の来館人数が増えるような取組を考える。</p>	<p>●読書をきちんと読み進められる力を、ICT活用は、毎日の読み進めによって大きな成果につながる。</p> <p>●先代校長の話されていた「チーム井田川」が継承され、教職員の方全員が学校の課題等を共有され、協議・対応されている状況。また、職員研修の状況も親しく見えています。学力向上の対応も、課題(長文の読解不足)の認識・評価から対応策が検討されていますが、もう半期でもあり遅いのではないかと思います。</p> <p>●児童の「文を書く力」をつけることが大切である。</p> <p>●図書イベントのように、興味をもたせる本の紹介を、また、興味をもつようにする方法を、</p> <p>●家庭学習については、親子で取り組み推進は有効だと思います。罰を取りを親度よくやられると期待があります。</p> <p>●読書を好まない児童への取組を検討する必要があります。</p> <p>●校内での来館者に対してあいさつができています。(県下等で行う方針)</p> <p>●まず、毎日の見守り際の先手方にあいさつを、</p> <p>●あいさつは大人の期待であり、子どもはどうか感じているのか、グループ討議等で子どもたちの意見を聞いてみたい。</p> <p>●SNSに潜む危険等、情報モラルに関する意識向上が引き続き大切である。</p> <p>●引き続き効果的なICT活用方法を検討していく。</p> <p>●日常生活と結び付けた情報モラルの学習を行う。</p>
<p>2 学習態度・生活習慣の定着</p> <p>○校内指導の統一:研修・人材育成、生活指導部での協議検討</p> <p>○代表委員会による自主活動の充実:生活目標(進んであいさつ、真下歩行、整理整頓等)の設定、委員会による呼びかけ</p> <p><検証></p> <p>●学校アンケート</p> <p>○児童アンケート「家族や地域の人にあいさつをしている」:青足特目答93%以上</p> <p>○児童アンケート「学校のまわりを守っている」:青足特目答90%以上</p>	<p>3 学習態度・生活習慣の定着</p> <p>○代表委員会が、生活目標として「進んであいさつをしよう、真下歩行をしよう、整理整頓をしよう等」を常に掲げ、様子を確認し合った。</p> <p>▲代表委員会、あいさつや真下歩行ができていないことを課題として挙げ、各クラスで目標を立てて取り組んだ。各クラスでは、チェックリストを活用し、毎日振り返りを行った。しかし、定着しない児童が一定数いたため、11月末より代表委員会が、全校に向けて注意喚起の呼びかけ等を行った。</p> <p>○児童アンケート「家族や地域の人にあいさつをしている」の青足特目回答は、93.9%である。</p> <p>○児童アンケート「学校のまわりを守っている」の青足特目回答は、92.7%である。</p> <p>▲あいさつをしていると思っている児童は93.9%と高いが、実際には、あいさつができていない児童がある。</p>	<p>3 学習態度・生活習慣の定着</p> <p>○代表委員会が、生活目標として「進んであいさつをしよう、真下歩行をしよう、整理整頓をしよう等」を常に掲げ、様子を確認し合った。</p> <p>▲代表委員会、あいさつや真下歩行ができていないことを課題として挙げ、各クラスで目標を立てて取り組んだ。各クラスでは、チェックリストを活用し、毎日振り返りを行った。しかし、定着しない児童が一定数いたため、11月末より代表委員会が、全校に向けて注意喚起の呼びかけ等を行った。</p> <p>○児童アンケート「家族や地域の人にあいさつをしている」の青足特目回答は、93.9%である。</p> <p>○児童アンケート「学校のまわりを守っている」の青足特目回答は、92.7%である。</p> <p>▲あいさつをしていると思っている児童は93.9%と高いが、実際には、あいさつができていない児童がある。</p>	<p>●真下歩行については、代表委員会、各クラスで継続して取り組む。</p> <p>●あいさつについては、代表委員会が新たな取組を考え実施していく。</p>	<p>●引き続き効果的なICT活用方法を検討していく。</p> <p>●日常生活と結び付けた情報モラルの学習を行う。</p>	
<p>4 ICT機器を効果的に活用した学習活動の推進</p> <p>○ICT機器を効果的に活用した学習内容の充実:1日1回以上の端末活用</p> <p>○ICT機器を活用した家庭学習:4年以上、週1日以上</p> <p>○「ICT機器活用」の視点を入れた授業研究</p> <p>○ICT支援員を活用した授業、ICT支援員を講師にした研修会の実施</p> <p><検証></p> <p>●学校アンケート</p> <p>○児童アンケート「学習の中でクローズドブックなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」:青足特目答90%以上</p> <p>●ICT機器を効果的に活用した学習内容の充実(1日1回以上の端末活用):100%</p> <p>●端末を週1日以上家庭学習に活用した割合(4年以上、週1日以上):100%</p> <p>●「ICT活用」の視点を入れた授業研究:年2回</p> <p>●ICT支援員を講師にした研修会の実施:年1回</p>	<p>4 ICT機器を効果的に活用した学習活動の推進</p> <p>○活用機会が増えたことにより、児童は端末の操作に慣れてきた。</p> <p>○予定機をクラスルームに配備することにより、児童が家庭でクローズドブックに触れる機会が増えた。昨年度までは、低学年のクローズドブックの持ち帰り長期休校が主だったが、今年度は、端末の持ち帰りを全児童が行った。</p> <p>○ドリルワークを長期休校や日常の宿題に活用した。</p> <p>○日常に使う機会が増えたため、児童アンケート「学習の中でクローズドブックなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の青足特目回答が96.9%である。</p> <p>○情報モラルに関する意識を向上させることができた。全学年が2学期に1回以上の情報モラル授業を行った。ICT支援員を活用し、学習内容は各学年に合わせた内容構成で実施した。高学年は「SNSに潜む危険を知り、まわりを守る方法」(中学年は「デジタルのルール」(低学年は「正しい言葉と健全な言葉」というテーマ)で実施した。</p> <p>○ICT機器活用をした授業研究を行い、教員のICT活用の意識が高まった。校内研修では「効果的にICT機器を活用するには」というテーマで、「必要な場面での活用」について協議した。</p> <p>▲情報モラルの学習と日常生活をつなげ、児童に自分ごととして考えさせる必要がある。</p>	<p>●活用機会が増えたことにより、児童は端末の操作に慣れてきた。</p> <p>●予定機をクラスルームに配備することにより、児童が家庭でクローズドブックに触れる機会が増えた。昨年度までは、低学年のクローズドブックの持ち帰り長期休校が主だったが、今年度は、端末の持ち帰りを全児童が行った。</p> <p>●ドリルワークを長期休校や日常の宿題に活用した。</p> <p>●日常に使う機会が増えたため、児童アンケート「学習の中でクローズドブックなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の青足特目回答が96.9%である。</p> <p>●情報モラルに関する意識を向上させることができた。全学年が2学期に1回以上の情報モラル授業を行った。ICT支援員を活用し、学習内容は各学年に合わせた内容構成で実施した。高学年は「SNSに潜む危険を知り、まわりを守る方法」(中学年は「デジタルのルール」(低学年は「正しい言葉と健全な言葉」というテーマ)で実施した。</p> <p>●ICT機器活用をした授業研究を行い、教員のICT活用の意識が高まった。校内研修では「効果的にICT機器を活用するには」というテーマで、「必要な場面での活用」について協議した。</p> <p>▲情報モラルの学習と日常生活をつなげ、児童に自分ごととして考えさせる必要がある。</p>	<p>●引き続き効果的なICT活用方法を検討していく。</p> <p>●日常生活と結び付けた情報モラルの学習を行う。</p>	<p>●引き続き効果的なICT活用方法を検討していく。</p> <p>●日常生活と結び付けた情報モラルの学習を行う。</p>	

<p>1 安全・安心な環境づくり ○いじめの未然防止・早期発見:各学級のアンケート実施、ビンクシャツ運動 ○人権教育の推進:各学年における仲間づくりの推進、白鳥中学校区人権教育公開授業年1回、人権教育実践レポート研修会年2回、道徳教育の充実 <検証> ●学校アンケート ○児童アンケート「学校に行くのは楽しい」:肯定割合93%以上 ○児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思う:肯定割合90%以上 ○児童アンケート「困りごとや不安がある時に、先生や家族など大人にいつでも相談できる」:肯定割合90%以上 ○児童アンケート「学校のまわりを守っている」:肯定割合90%以上 ●探検者アンケート「お千様は、早稲・早稲を・朝ごはんの習慣がついていますか」:肯定割合90%以上</p> <p>2 特別な支援の必要な児童への継続的な対応 ○職員間、職員と保護者間での情報共有:定期的な支援会議の実施 ○教育相談・支援体制の充実:関係機関と連携したケース会議、支援会議の実施</p> <p>3 教職員の教育相談に係る専門性の向上 ○研修の充実:スクールカウンセラーを講師とする校内研修の実施 ○スクールカウンセラーとの連携:スクールカウンセラーとのコンサルテーションの実施 <検証> ●スクールカウンセラーのコンサルテーションや教育相談に関する研修を受けた教職員の割合:100%</p>	<p>1 安全・安心な環境づくり ○いじめアンケートを各学級に実施し、1週間以内に聞き取りや情報共有と指導等を行い、早期発見・早期対応、継続的な対応を実施した。 ○4月・11月にビンクシャツ運動を実施するとともに、11月には全校でいじめ防止推進に取り組み、探検者や地味に発信した。 ○いじめの未然防止の取組として、4・5・6年生が、9月10日に「いじめ予防教室」を実施した。 ○5年生が、10月15日に「緊急事態も差別の人権学習を実施した。 ○白鳥中学校区人権教育公開授業を9月24日に実施した。1・2・3・4年生が授業公開をした。 ○児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思う割合が、低学年98.0%、中学年93.0%、高学年97.0%と、すべて93.0%以上であった。 ○児童アンケート「困りごとや不安がある時に、先生や家族など大人にいつでも相談できる」の肯定割合が、低学年85.0%、中学年78.8%、高学年77.1%であった。 ○児童アンケート「学校のまわりを守っている」の肯定割合が、低学年98.0%、中学年94.0%、高学年98.0%である。 ●探検者アンケート「お千様は、早稲・早稲を・朝ごはんの習慣がついていますか」の肯定割合が、78.3%である。11.7%が目だった。</p> <p>2 特別な支援の必要な児童への継続的な対応 ○毎週行なう職員打ち合わせで、特別な支援を必要とする児童の情報共有ができた。 ○定期的に支援会議を行い、探検者の思いを聞き取り、児童の支援についての方向性を話し合っている。 ○職員間で児童の情報交換を促し、早期対応、関係連絡、支援会議の実施等を行った。 ○不登校児童や探検者や担任等が連絡を取りあっている。また、関係機関等とも連携も認めている。 ○関係機関等と定期的に情報交換を行い、適切な支援につなげることができた。</p> <p>3 教職員の教育相談に係る専門性の向上 ○スクールカウンセラーを講師とした「特別な支援を必要とする児童の対応」の校内研修を実施した。 ○1月1日、スクールカウンセラーが来校し、児童や探検者の相談、各学年の児童相談とアドバイス、コンサルテーション等を実施し、専門家と連携した支援を行うことができた。(カウンセラーの研修を受けた教職員:100%)</p>	<p>・いじめアンケートは引き続き実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・ビンクシャツ運動やいじめ防止推進は、児童へのいじめ防止の取組を高めるために来年度も取組を継続する。 ・早稲・早稲を・朝ごはんの習慣について、通信や懇話等で呼びかけていく。</p> <p>・引き続き、学校全体で児童の情報共有、協議をし、適切な支援につなげる。</p> <p>・さらに気軽に相談に来られるよう、引き続き通信等により、スクールカウンセラー活用を案内を発信する。</p>	<p>・こともちの何気ない会話の中でちょっと気になるものがないか。 ・大変ですが、迅速な対応をお願いします。 ・長期欠席者ゼロを目指して地道に頑張りたい。 ・いじめ防止対応は、計画通りに実施され、アンケートから早期発見が実施されたことは、大変有効であったと評価されます。これもからの相談がたれなく受け取られるように、職員の方全員での取組をお願いします。 ・困りごとや不安を相談されたら、必ず対応と報告を図る必要がある。 ・特別な支援の必要な児童への対応、成果をあげられていることを評価します。</p>
<p>1 「やりぬき力」「自覚心」「自己肯定感」「社会性」の向上 ○人権教育の推進:中学校区人権教育公開授業年1回実施、故区人権教育公開授業への年1回参加、人権教育校内研修会 年2回実施 ○読書リフレッシュ、児童書年:年2回実施 <検証> ●学校アンケート ○児童アンケート「自分には、よいところがあると思う」:肯定割合90%以上</p> <p>2 読書活動を通じた非認知能力の育成 ○リーディングパディの取組等、互いに感想や感謝を伝える活動を実施している。 <検証> ●学校アンケート ○児童アンケート「読書は好きですか」:肯定割合90%以上</p>	<p>1 「やりぬき力」「自覚心」「自己肯定感」「社会性」の向上 ○中学校区人権教育公開授業を9月24日に本校で実施した。白鳥中学校区人権教育研究会に全校員が参加した。 ○人権研修会を1学期と2学期に実施した。夏休期中は、読書リフレッシュアップ研修会を実施した。 ○4月8日に、1年生を迎える会を実施した。さらに、5月18日の進級や9月19日、12月3日に読書リフレッシュ活動を実施した。 ●児童アンケート「自分には、よいところがあると思う」の肯定割合は、低学年92.9%、中学年78.8%、高学年88.8%である。中学年以上で大きく目立った。</p> <p>2 読書活動を通じた非認知能力の育成 ○読書リフレッシュの中で、リーディングパディの取組を年2回実施した。感想を伝える活動等を通して、非認知能力の育成につなげられている。 ○低学年では、2年生から1年生への読み聞かせを行い、感想を伝える活動を行った。 ○図書ボランティアと連携し、非認知能力の育成につながる書架の掲示を行い、児童の興味関心が高まった。 ●児童アンケート「読書は好きですか」の肯定割合が、92.3%と高いが、実際の読書活動の時間はその割合が反映されていない。</p>	<p>・校内人権教育研修会は、今年度と同様に実施する。 ・読書リフレッシュは、互いのよいところを伝える等、友だちとの関わりを深める活動を取り入れる。</p> <p>・引き続き、読書活動を推進し、リーディングパディの取組等を行い、非認知能力の育成に努める。</p>	<p>・バランスよく能力が向上できるよう努めてほしい。 ・読書リフレッシュは、年齢の違いにより相手を感じやすい行動ができる。 ・人権教育を通して人への思いやりを知り、自己の肯定感を育む良い取組だと評価します。 ・非認知能力を学年別に評価できる指標があれば、さらに成果が期待できると思います。 ・あいさつの取組から自己肯定感の向上を図ることができるとはいい。 ・他者との比較が自己肯定感の低下につながるのではない。 ・学年級のため児童は互いのことをよく知っている反面、決めつけた見方になっていないか、自分の個性が十分に発揮できるような集団であってほしい。</p> <p>・リーディングパディは、家庭内での読書活動に広がられたらと思います。</p>
<p>1 家庭・地域との連携 ○地域ボランティアの協力:見守り隊、図書読書ボランティアの推進 ○地域の人材と協力を活用した教育活動の推進:各学年で実施</p> <p>2 家庭・地域への発信 ○学校運営協議会での協議:年8回開催 ○通信やHP、メール配信等による情報発信:年30日以上 <検証> ●学校アンケート ○探検者アンケート「通信、ホームページなどで、学校の様子が伝わっていますか」:肯定割合95%以上 ○探検者アンケート「学校は相談しやすいですか」:肯定割合95%以上</p>	<p>1 家庭・地域との連携 ○堂下校の見守り:23名、読み聞かせ7名、図書読書ボランティア5名、環境整備24名 ○クラブ支援(伊勢国球、フェリパドミントン、卓球)3名 ○地域活動支援:6名+JA井田川職員 ○堂下校の見守りや、家庭・地域が大変協力してくれている。 ○PTA、地域による除雪作業により、児童は、日々の教育活動や運動会練習等を快適に過ごすことができた。 ○地域活動支援は、年間を通して読書読書ボランティアに協力をお願いした。 ○読み聞かせボランティアや図書読書ボランティアによる読み聞かせ、読書活動推進に向けた環境整備等、大変充実している。児童の非認知能力育成にも効果的である。 ○消防団見守りや町探検、音の遊び等の複数学年の校外学習において、地域の人材や協力を活用した学習活動を実施することができた。</p> <p>2 家庭・地域への発信・啓発 ○学校運営協議会は、役員合同開催を含め6回開催する。様々な立場から貴重な意見をいただくよい機会となっている。 ○学校運営協議会(学校探検委員会)の場で、探検委員の児童が探検委員会の承認を要し、児童の意見表明の機会としている。 ●学校だけでなく、ホームページ等の発信に努めたが、探検者アンケート「通信、ホームページなどで、学校の様子が伝わっていますか」の肯定割合93.1%であった。 ●探検者アンケート「学校は相談しやすいですか」:肯定割合97.7%であった。</p>	<p>・地域人材を活用した計画的な授業づくりに向け、地域コーディネーターと協議してボランティアの活用を深める。 ・ホームページの定期的な掲載、更新を心がける。 ・引き続き探検者・地域と学校が、児童の成長とともに考え合っていることを大切にしたい。</p>	<p>・こともちが堂下校の見守りボランティアさんにあいさつをしているか、どのように思っているのか聞いてみたい。 ・スタッフの高齢化も心配しています。 ・地域の方によって、いろいろな経験をする中で児童の大きな成長につながる。 ・協力している地域の方々、ボランティアの皆様、またその活動の取組をされている学校関係者の皆様へ感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。</p>
<p>1 給食時間短縮の促進 ○組合・連絡・相談の徹底:週1回の職員打ち合わせにおける情報共有 ○給食のICT化による給食時間短縮:会議資料のペーパーレス化、給食の共有化、アンケート調査、出席管理等 <検証> ●4月45時間、年260時間を越える時間外勤務:0人 ●定時退校日の時間外勤務:10%未満</p>	<p>1 給食時間短縮の促進 ●4月45時間を越える時間外勤務が2人(11月現在)である。行事等の年間計画を見直し、繁忙期が来ないようにする。 ○定時退校日の時間外勤務:0人(11月現在)</p>	<p>・行事等の年間計画を見直すことで繁忙期が来ないようにする。 ・スクールサポースタッフの有効な活用について、さらに検討していく。 ・データ管理において、ファイル整理を行う。</p>	<p>・繁忙期が来ない仕事はないと思います。特定の職員が負担する仕事のないようお願いします。 ・先手同士の協力により、給食時間の調整を共有してほしい。 ・職員業務の見直し、業務廃止、または取替の検討等PRしていただければ、風評が軽減されます。</p>